

令和6年度 徳島大学徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程

臨床心理学専攻 I期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙8枚の、合計9枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計5問である。5問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その1

第1問 次の英文を読み、下の問1～3に答えよ。

Background

The efficacy of the unified protocol of the transdiagnostic treatment for emotional disorders (UP) has been poorly studied in patients with depressive disorders. This study aimed to examine the efficacy of UP for improving depressive symptoms in patients with depressive and/or anxiety-related disorders.

Methods

This assessor-blinded, randomized, 20-week, parallel-group, superiority study compared the efficacy of the UP with treatment-as-usual (UP-TAU) v. wait-list with treatment-as-usual (WL-TAU). Patients diagnosed with depressive and/or anxiety disorders and with depressive symptoms participated. The primary outcome was depressive symptoms assessed by GRID-Hamilton depression rating scale (GRID-HAMD) at 21 weeks. The secondary outcomes included assessor-rated anxiety symptoms, severity and improvement of clinical global impression, responder and remission status, and loss of principal diagnosis.

Results

In total, 104 patients participated and were subjected to intention-to-treat analysis [mean age = 37.4, S.D. = 11.5, 63 female (61%), 54 (51.9%) with a principal diagnosis of depressive disorders]. The mean GRID-HAMD scores in the UP-TAU and WL-TAU groups were 16.15 (S.D. = 4.90) and 17.06 (S.D. = 6.46) at baseline and 12.14 (S.D. = 5.47) and 17.34 (S.D. = 5.78) at 21 weeks, with a significant adjusted mean change difference of -3.99 (95% CI -6.10 to -1.87). Patients in the UP-TAU group showed significant superiority in anxiety and clinical global impressions. The improvement in the UP-TAU group was maintained in all outcomes at 43 weeks. No serious adverse events were observed in the UP-TAU group.

Conclusions

The UP is an effective approach for patients with depressive and/or anxiety disorders.

出典 : Ito, M., Horikoshi, M., Kato, N., Oe, Y., Fujisato, H., Yamaguchi, K., ..: & Takebayashi, Y. (2023). Efficacy of the unified protocol for transdiagnostic cognitive-behavioral treatment for depressive and anxiety disorders: a randomized controlled trial. *Psychological Medicine*, 53, 7, 3009 - 3020.

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その2

問1 本研究で用いられた方法(対象者や実験デザインなど)を要約せよ。

--

問2 本研究で得られた結果を要約せよ。

--

問3 本研究のねらいとその成果を述べよ。

--

小 計	
-----	--

受験番号

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その3

第2問 心理学に関連する、次の 1～20 とそれぞれ関連が最も深いものを、下の語群 a～z のうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 同一の研究課題に関して、独立に行われた研究の結果を統計的手法によって統合する方法。
2. 帰無仮説を棄却する際の確率。
3. ある精神疾患の心理的な過程を解明するため、非臨床サンプルを対象とした研究。
4. 他者に対して、言語を介して伝達される自分自身に関する情報、およびその伝達行為。
5. 神経細胞から別の神経細胞への信号伝達が行われる接触部位。
6. 刺激が感知可能となる最小の物理量。
7. 複数の要因が影響し合い、説明変数同士間で相乗効果が現れること。
8. 記憶、注意、学習、行動のプログラミングとモニタリングなど、多数の機能が統合された最も複雑な機能を営む脳部位。
9. イヌに逃避不可能な電撃を何度か与えると、その後、逃避・回避可能な場面に置かれても、その学習が著しく妨害されるという事実を発見。
10. 自らの記憶や思考といった認知過程そのものを認知の対象とする、より高次の認知機能。
11. 嫌悪刺激を呈示することで反応が減少する操作。
12. 社会的な習慣や態度、価値観、行動などが、社会の他の成員からの影響を受けて獲得される学習を提唱。
13. 人生の時期を8つの段階に分け、各発達段階には、その時期に中心的な発達課題があることを提唱。
14. 過去の経験、文脈についての知識などによって仮定される解釈から出発し、入力情報を理解するような処理。
15. 大脳新皮質の内側にあり、扁桃体、海馬などから構成され、間脳や大脳基底核を取り囲む領域。
16. 危機的な状況に際して、特定の対象との近接を求め、これを維持しようとする個体の傾性。
17. 過去の経験を構造化した認知的枠組み。
18. 学習が生起するためには、反応が環境に対して何らかの効果をもつことが必要であることを提唱。
19. 抑うつ気分や不安気分を低下させる神経伝達物質。
20. 認知的な発達には、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期という4つの発達段階に区切られることを主張。

語群

- | | | | |
|-----------------------|-------------------|---------------------|------------------|
| a. Piaget, J. | b. 有意水準 | c. トップダウン処理 | d. 絶対閾 |
| e. Seligman, M. E. P. | f. Bandura, A. | g. メタ認知 | h. ホーソン研究 |
| i. ドーパミン | j. 罰 | k. セロトニン | l. Watson, J. B. |
| m. アナログ研究 | n. Erikson, E. H. | o. 大脳辺縁系 | p. アタッチメント |
| q. メタ分析 | r. シナプス | s. 負の強化 | t. 交互作用 |
| u. 正の強化 | v. 自己開示 | w. Thorndike, E. L. | x. スキーマ |
| y. ボトムアップ処理 | z. 前頭前野 | | |

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小 計

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その4

第3問 問題文を読み、下の問1～3に答えよ。

Aさんは、「大学生の間食回数の減少」を目的に開発された心理介入プログラムの効果を検証しようと考えた。参加者を募集したところ、最終的に40名が参加の意思を示した。事前テストの後、週1回30分、全5回のプログラムを個別に実施した。介入の結果として、1週間の間食回数がどの程度になったかを調べるため、全プログラム終了から2週間後に事後テストを行った。全期間を通してのドロップアウト件数は0件であった。結果として、プログラム介入を終えた参加者たちの多くにおいて、間食回数が減っていることが示された。

問1 この研究の独立変数（要因）と従属変数はそれぞれ何か、述べよ。

--

問2 この研究結果から、「介入プログラムが間食回数の減少に効果を及ぼす」とすぐに結論づけることはできない理由を3つ挙げ、説明せよ。

--

問3 「介入プログラムが間食回数の減少に効果を及ぼすか否か」を検証するためには、研究計画をどのように改善すればよいか。具体的な改善案を述べよ。

--

小 計	
-----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その5

第4問 下記の問1～問10に答えよ。

問1 以下の診断名のうち, Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition, Text Revision (DSM-5-TR) で初めて収載されたものはどれか。以下より適切なものを一つ選べ。

- (ア) 社会的 (語用論的) コミュニケーション症
- (イ) 遷延性悲嘆症
- (ウ) ためこみ症
- (エ) 性別違和
- (オ) 軽度認知障害

問2 虐待や事件, 事故の被害を受けた疑いのある子ども (障がい者など社会的弱者を含む) を対象に, できるだけ正確な情報を, できるだけ負担なく聴取することを目指す面接法は何か。以下より適切なものを一つ選べ。

- (ア) サイコロジカル・ファーストエイド
- (イ) サイコロジカル・リカバリー・スキル
- (ウ) 被害者参加制度
- (エ) 心理的安全性に基づく聴取法
- (オ) 司法面接

問3 わが国の運転免許更新の際に, 75 歳以上の対象者が受験しなければならない「認知機能検査」に含まれる内容はどれか。以下より適切なものを全て選べ。

- (ア) 計算
- (イ) 手がかり再生
- (ウ) 時間の見当識
- (エ) 場所の見当識
- (オ) 描画

問4 がん患者およびその心理支援について, 以下より誤っているものを全て選べ。

- (ア) 緩和ケアとは, 生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを, 痛みやその他の身体的・心理社会的な問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで, 苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである。
- (イ) がんに関連する疼痛は心理的支援の対象となる。
- (ウ) がん患者における自殺率は, 一般人口と比較して低い。
- (エ) 合併する精神疾患は, PTSD が最も多い。
- (オ) 包括的アセスメントの対象には, がん自体に関連する症状に加えて, 社会経済的, 心理的および実存的問題が含まれる。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程・臨床心理学専攻
臨床心理学 その6

問5 以下の心理療法のうち、一般的に「集団療法」の形態で実施するものはどれか。以下より適切なものを一つ選べ。

- (ア) Mindfulness-based cognitive therapy (マインドフルネス認知療法)
- (イ) Emotion focused therapy (感情焦点化療法)
- (ウ) Prolonged Exposure Therapy (持続エクスポージャー療法)
- (エ) Psychodynamic psychotherapy (精神分析的心理療法)
- (オ) Eye Movement Desensitization and Reprocessing (眼球運動による脱感作と再処理法)

問6 個人や家族がサービスの利用に際して不利益を被らないように、法的に保障された権利を代弁・擁護することを何というか。以下より適切なものを一つ選べ。

- (ア) インフォームド・コンセント
- (イ) シェアード・ディシジョン・メイキング
- (ウ) インクルーシブ
- (エ) アドヒアランス
- (オ) アドボカシー

問7 行動を生じさせる刺激、それに後続する行動、その行動の結果という3つの要素の結びつきによって、行動の始発や増減を結果の機能から説明する「機能分析」について、以下の中で関係のない語句を全て選べ。

- (ア) 三項随伴性
- (イ) レスポデント条件づけ
- (ウ) 自発的回復
- (エ) オペラント条件づけ
- (オ) 強化子

問8 自殺を考えていると打ち明けられた際の基本的な応答についてまとめられた「TALK の原則」に含まれていない内容はどれか。以下より一つ選べ。

- (ア) 誠実な態度で話しかける。
- (イ) 自殺についても話題にする（丁寧に尋ねる）。
- (ウ) 相手の訴えを傾聴する。
- (エ) 安全を確保する。
- (オ) 死なない約束を取り付ける。

問9 下記の心理療法と人物名のペアについて、適当でない組み合わせはどれか。以下より一つ選べ。

- (ア) Unified Protocol (統一プロトコル) — David H. Barlow
- (イ) Mentalization-Based Treatment (メンタライゼーション) — Peter Fonagy
- (ウ) Schema-Focused Therapy (スキーマ療法) — Jeffrey E. Young
- (エ) Stress Inoculation Training (ストレス免疫訓練) — Milton H. Erickson
- (オ) Interpersonal Psychotherapy (対人関係療法) — Gerald L. Klerman

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その7

問 1 0 心理職の「スーパービジョン」の目的は、一般的にどのようなものか。以下より誤っていると考えられるものを全て選べ。

- (ア) 資格更新ポイントの取得
- (イ) 心理査定や面接の技術向上
- (ウ) 自己の実践や態度の振り返り
- (エ) クライエントの診断名の確定
- (オ) クライエントの利益

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 1 0

小 計	
-----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻
臨床心理学 その8

第5問 精神症状を評価する手法に関して、問1～問3に答えよ。

問1 抑うつ症状をアセスメントする評価尺度として、さまざまなものが開発されている。それらのうち、1つを具体的な評価尺度名を挙げながら説明せよ。

--

問2 DSM-5 に基づいて、精神疾患の網羅的な診断を可能とする構造化面接法について、その名前や概要、特長と留意点について、具体的に説明せよ。 ※なお、本手法は半構造化面接に分類されることもある。

--

問3 心理アセスメントにおける留意すべき倫理的配慮について、2つ以上を説明せよ。

--

小 計	
-----	--

合 計	
-----	--